



口腔ケアは単なる口腔清掃だけではなく、口腔機能の改善に大きく貢献することがわかってきています。今回は現場の皆様から良くご質問をいただく「開口」がテーマです。解説はケアマネージャーとして在宅口腔介護に豊富な経験を持つ歯科衛生士 齊藤美香先生（旭川市 DH ケアプラン主宰）です。

健やかな毎日は口腔の健康から

口腔は健康で生き活きとした毎日を支える大切な器官です。

口腔衛生状態の悪化、機能の低下は、私達の心身の健康を脅かし、特に高齢者では QOL の低下・介護状態の悪化だけでなく生命の危機を招く場合もあります。

口腔ケア=口腔介護に対して一歩引いていませんか？

食事やおむつ(排泄)のお世話はしても口腔はちょっと…。人の口や入れ歯に触れるのは嫌…大変だから…など。ちょっとした介助で要介護者・高齢者は口腔ケアを続けられ、介助者も安楽に口腔ケアを習慣化できます。

身体介護と口腔介護、基本的な考えは同じです。「安全に楽しく」そして利用者が爽快感を実感できるよう「口腔ケア=口腔介護」を行いましょ。

さて、口腔ケアの実施に当たり、多くご相談を受けるのは「口が開かない、開けていられない方への対応方法」です。「開口できないのか？(疾患・障害)」「開口しないのか？(拒否)」見極めなければなりません。今回は「開口しない場合」の対応をお話します。

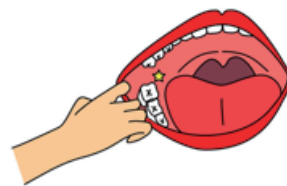
事例

脳梗塞後遺症・心不全の既往有の M・O さんは男性・84 歳。在宅で十年前より寝たきりを余儀なくされています。ご自分の歯が 24 本残っており、健康であれば「8020」対象者です。(※参照) 胃ろうが造設されており、経口摂取もされていません。「口の中(歯の内側)を見る事も出来ない」というのが介入依頼でした。

長く経口摂取されておらず、口腔周囲筋力も衰えており口腔乾燥と汚染も進んでいました。対応として・・・

- ・週1回の専門的介入とともに、日常関するすべての人(この場合は妻・ヘルパーさん)に口腔ケア及び開口を指導
M・O さんの場合の開口方法は「K-ポイント刺激」(左下第一大臼歯の根の下横(頬側)辺りのくぼみを刺激し、反射で開ける。(右図参照))を指導
- ・開口維持用品としてバイトブロック、バイトチューブの使用法指導
- ・歯列の外側に介助者の指を置くようにする
(注意しないと指をかまれる恐れがある)
- ・口腔乾燥しているので保湿剤(口腔化粧品)の併用指導など・・・

K-ポイント



エラックバイトチューブ



3ヵ月経過後より、バイトブロックは要らなくなりました。口腔内汚染の改善とともに口腔ケア時、自主的に開口されるようになりました。この方は「不快」で開口しなかったのです。そして半年後眠るように旅立たれました。ご家族は「きれいな口にしてあげられて良かった」とおっしゃいました。

口腔ケアは難しい事ではありません。歯科専門職と上手く連携し、毎日のケアとして習慣付けをしましょう。

※8020・・・厚生労働省と日本歯科医師会では、「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という8020運動を展開しています。

制作協力 DHケアプラン www.geocities.jp/dhcareplan

